

日本最大のタブー、原発マフィアに挑む河合弁護士渾身の話題作！



映画

# 「日本と原発」

私たちは原発で幸せですか？

河合弘之 初監督作品

製作：Kプロジェクト 2014年/日本/カラー/2時間 17分/

## “脱原発”弁護士が自らメガホン 映画「日本と原発」の説得力

(転載元) 日刊ゲンダイ 14/11/15

2015年

3月6日(金)19:00~

3月8日(日)14:30~

佐久教育会館

(佐久市岩村田 3098-1)

■入場料：前売 1000円

当日 1200円

高校生以下 500円

売り上げは、「フジコーポ放射能焼却灰裁判」の費用に使わせていただきます。

主催：放射能を考える佐久地区連絡会

連絡先：080-5143-2235 下平



福島第1原発事故後に多数作られてきた“脱原発映画”の、決定版というべきパワフルなドキュメンタリー作品が登場した。

2014年11月8日から公開されている「日本と原発」がそれで、監督はダグラス・グラマン事件、イトマン事件など数々の経済事件を担当して凄腕の金融弁護士と称された河合弘之。90年代から脱原発運動に関わる彼は、近年は大飯原発差し止め訴訟や、東電の歴代取締役役に5兆5045億円という世界最高額の損害賠償を請求した株主代表訴訟など、日本の脱原発シーンをリードするカリスマ弁護士として知られる。

「日本と原発」はそんな河合監督が、原発訴訟に40年間取り組み続ける盟友・海渡雄一弁護士を構成・監修に迎え、「推進側プロパガンダに染まった裁判官や一般国民」の洗脳を解くために作った。インタビューや解説シーンを織り交ぜ、推進派のあらゆる主張を論破する痛快作だ。

ナレーションの語り口などは朴訥としているが、御用学者や関係者を実名で名指しするなどその批判ぶりは容赦ない。まるでじゅうたん爆撃のように「不都合な真実」を次々と突きつける姿は、法廷で相手を完膚なきまで叩きのめすような迫力と説得力に満ちている。

幾多の“脱原発映画”の中で、本作が異彩を放つのは何よりこのケンカ上手にある。一般に、反原発ネタの映画は出演者やスタッフ、資金はもちろん、公開劇場を探すことすら困難とされる。事実、本作でも河合監督は数々の職業監督に断られ、出資予定者には途中で逃げられるなど辛酸をなめたという。確かに今後もあらゆる企業と付き合いがなければならぬ専門の映画監督では、とてもここまでの“ケンカ”はできまい。数々の原発訴訟でリアルに闘う当事者だからこそ、ここまでやれたわけだ。

劇中音楽は、かつて佐村河内守のゴーストとして世間を騒がせた新垣隆。監督たちの心意気に共感した彼が、映画のラストを渾身のスコアで盛り上げている。(映画批評家・前田有一)